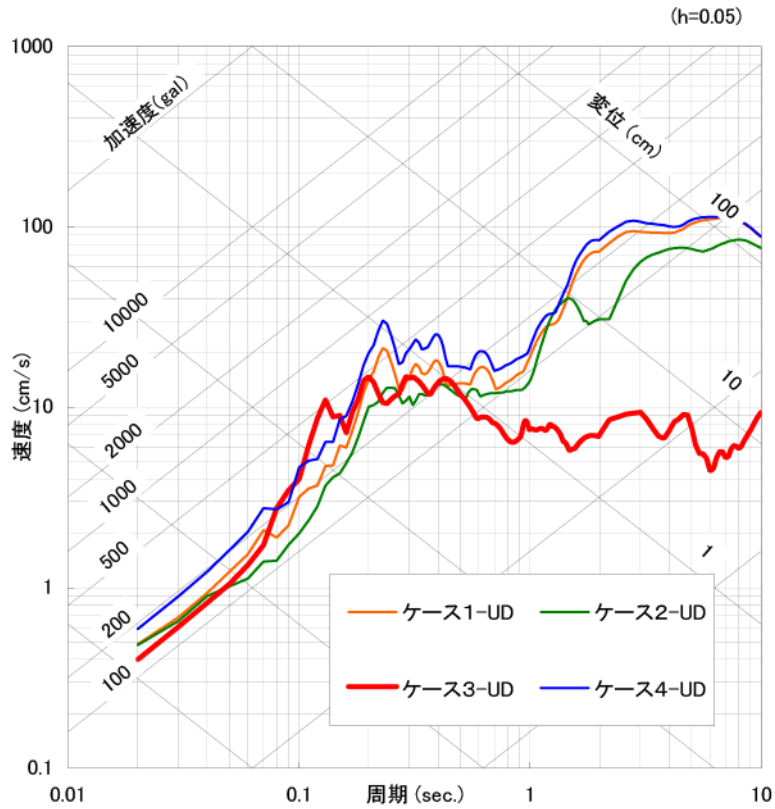
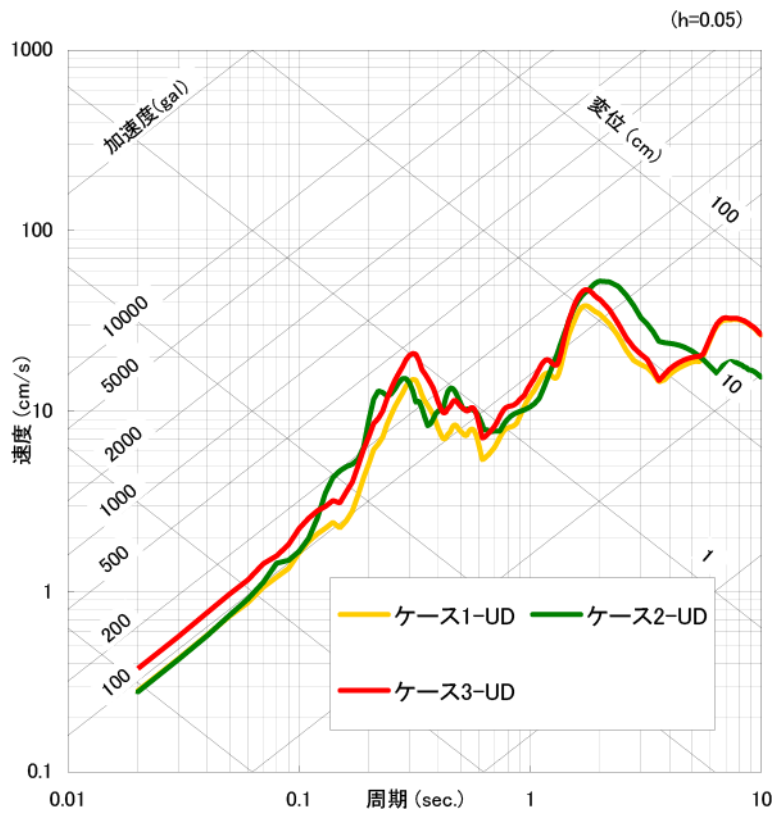


第 4.2.5-9 図 解放基盤表面における地震動の応答スペクトル (断層モデルを用いた地震動評価)

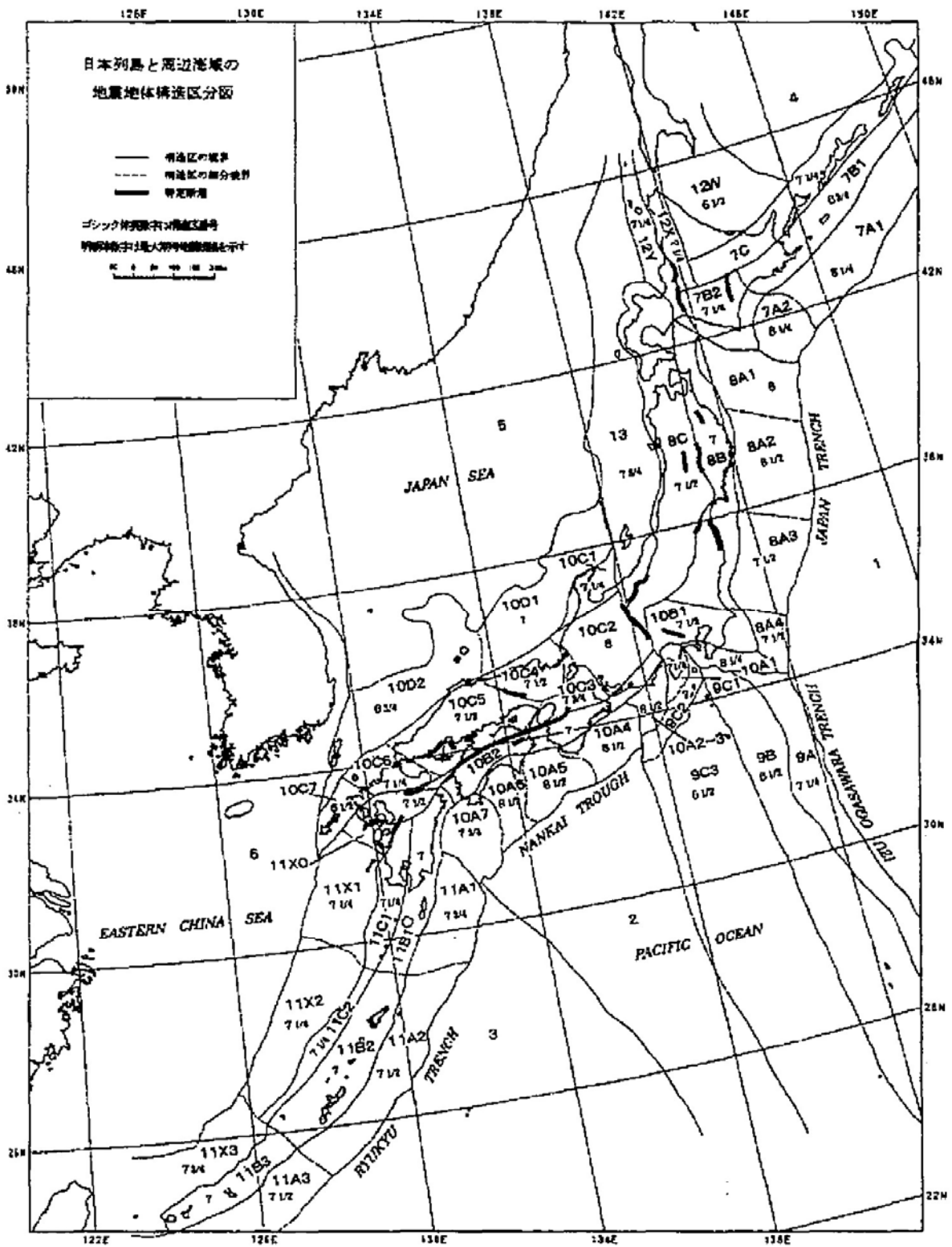


(c) 鉛直動 (中央構造線断層帯)

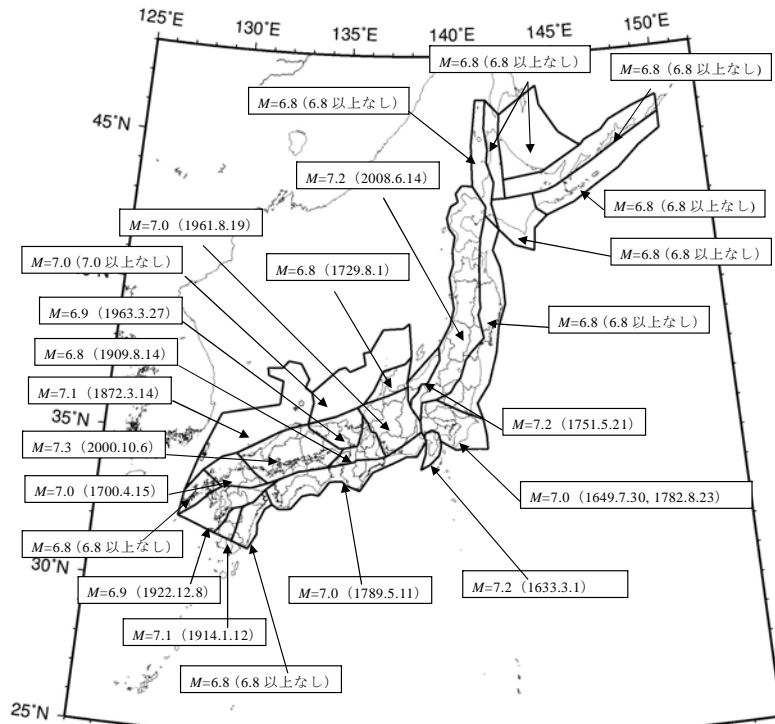


(d) 鉛直動 (上町断層帯)

第 4.2.5-9 図 続き



第 4.3.1-1 図 垣見ほか(2003)⁽³⁵⁾による地震地体構造区分

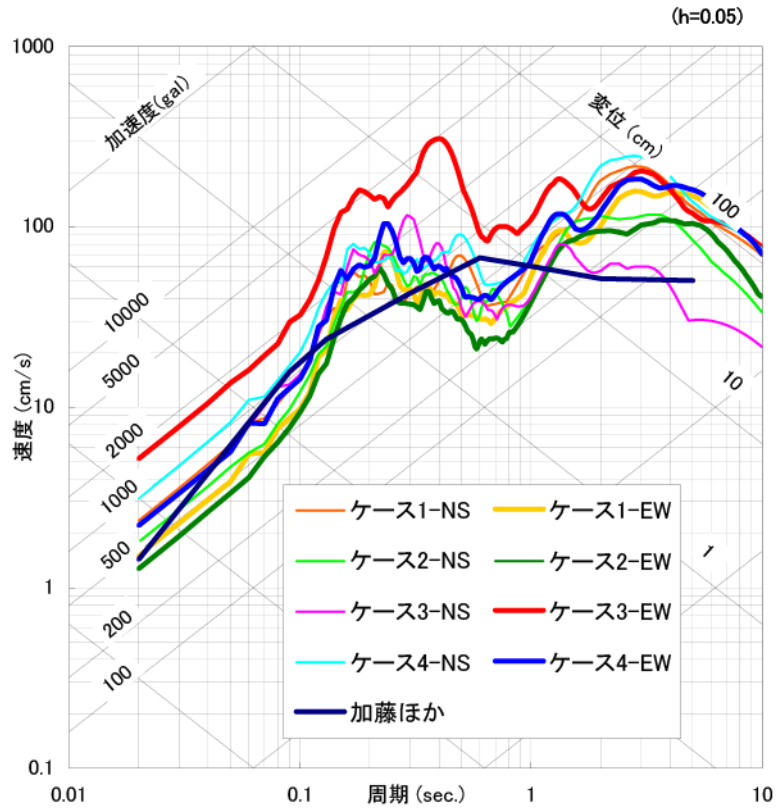


陸域の震源断層を予め特定しにくい地震の領域区分

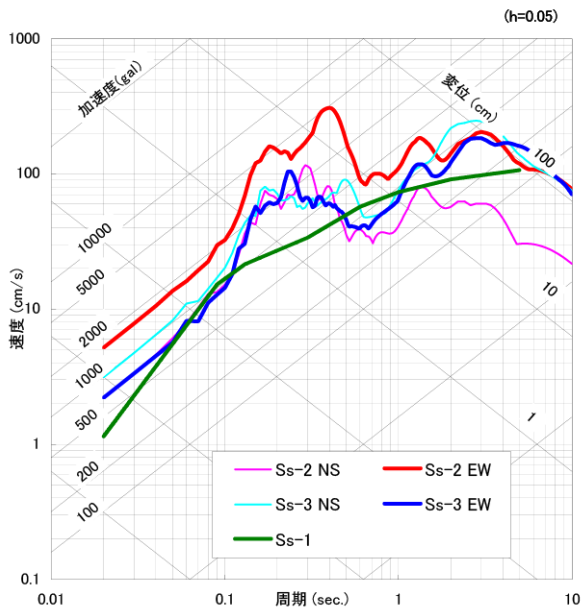
領域ごとの最大マグニチュード。

番号	最大 M	根拠	備考
1	6.8	(最大 M の下限値)	
2	6.8	(最大 M の下限値)	
3	6.8	(最大 M の下限値)	
4	6.8	(最大 M の下限値)	
5	6.8	(最大 M の下限値)	
6	6.8	(最大 M の下限値)	
7	6.8	(最大 M の下限値)	1772.6.3(M6.7)と 1858.7.8(M7.3)は太平洋プレートの地震と判断。
8	7.2	2008.06.14 岩手・宮城内陸	1766 津軽地震(M7.3), 1896 陸羽地震(M7.2)は活断層と対応。
9	7.0	1649.07.30 川越 1782.08.23 小田原	地殻内の地震かどうか不明確だが考慮。 1924 丹沢地震(M7.3)は大正関東地震の余震として考慮せず。
10	7.2	1751.05.21 高田	1847 善光寺地震(M7.4)は活断層と対応。
11	6.8	1729.08.01 能登・佐渡	
12	7.0	1961.08.19 北米濃地震	1891 濃尾地震(M8.0), 1858 飛越地震(M7.1), 1948 福井地震(M7.1)はいずれも活断層と対応。
13	6.8	1909.08.14 姉川地震	1596 慶長地震(M7.5), 1662 寛文地震(M7.5), 1854 伊賀上野地震(M7.3), 1995 兵庫県南部地震(M7.3)はいずれも活断層と対応。 1819 年の近江八幡付近の地震(M7.3)はやや深い地震の可能性が指摘されているため対象外とした。
14	6.9	1963.03.27 越前岬沖	1927 北丹後地震(M7.3), 1943 鳥取地震(M7.2)はいずれも活断層と対応。
15	7.3	2000.10.06 鳥取県西部地震	1649(M7.0), 1686(M7.2), 1857(M7.3)はフィリピン海プレートの地震と考えられるため除外。
16	7.0	1700.04.15 老岐・対馬	2005 福岡県西方沖(M7.0)は警固断層帯北西部と対応。
17	6.8	(最大 M の下限値)	
18	7.0	1789.05.11 阿波	1854 伊予西部(M7.4)はフィリピン海プレートの地震と考えられるため対象外とした。
19	6.8	(最大 M の下限値)	1769 年の M7.7 の地震は津波が発生しており、フィリピン海プレートの地震と判断。
20	7.1	1914.01.12 桜島	火山性地震の可能性も指摘されているが最大マグニチュード設定に考慮。
21	6.9	1922.12.08 千々石湾	1596 慶長豊後(M7.5)は活断層と対応。
22	7.0	(海域の最大 M の下限値)	
23	7.1	1872.03.14 浜田地震	
24	7.2	1633.03.01 小田原 (7±1/4)	1930 北伊豆地震(M7.3)は活断層と対応。

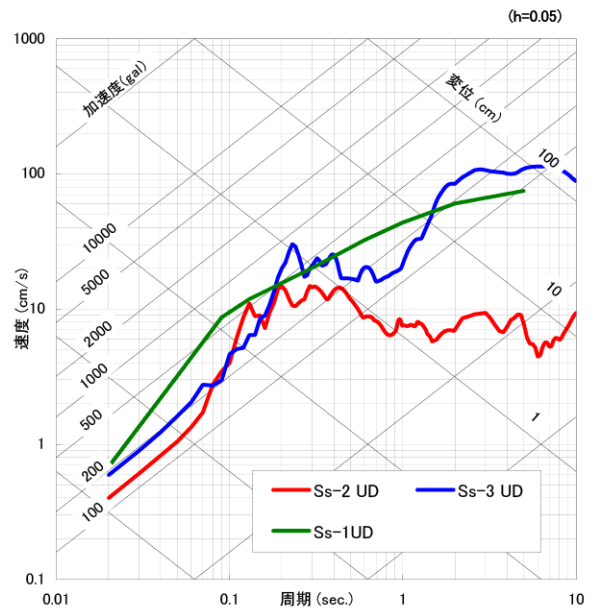
第 4.3.1-2 図 陸域の震源断層を予め特定しにくい地震の最大マグニチュード
(地震調査研究推進本部(2009)⁽³⁴⁾により)



第 4.3.2-1 図 解放基盤加藤ほか(2004)⁽³⁸⁾による応答スペクトルと中央構造線断層帯の断層モデルにより評価した地震動の応答スペクトルの比較

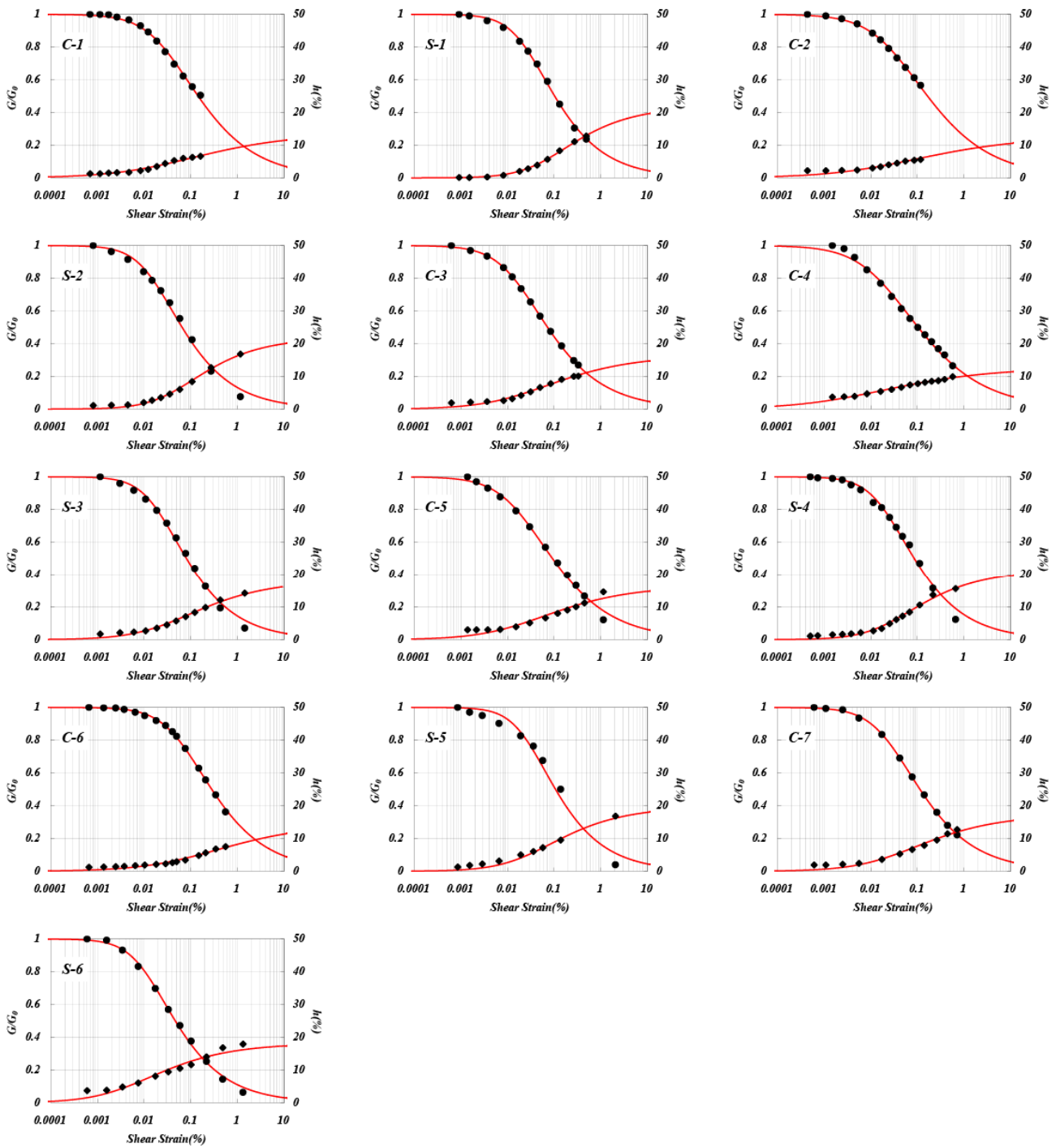


(a) 水平動

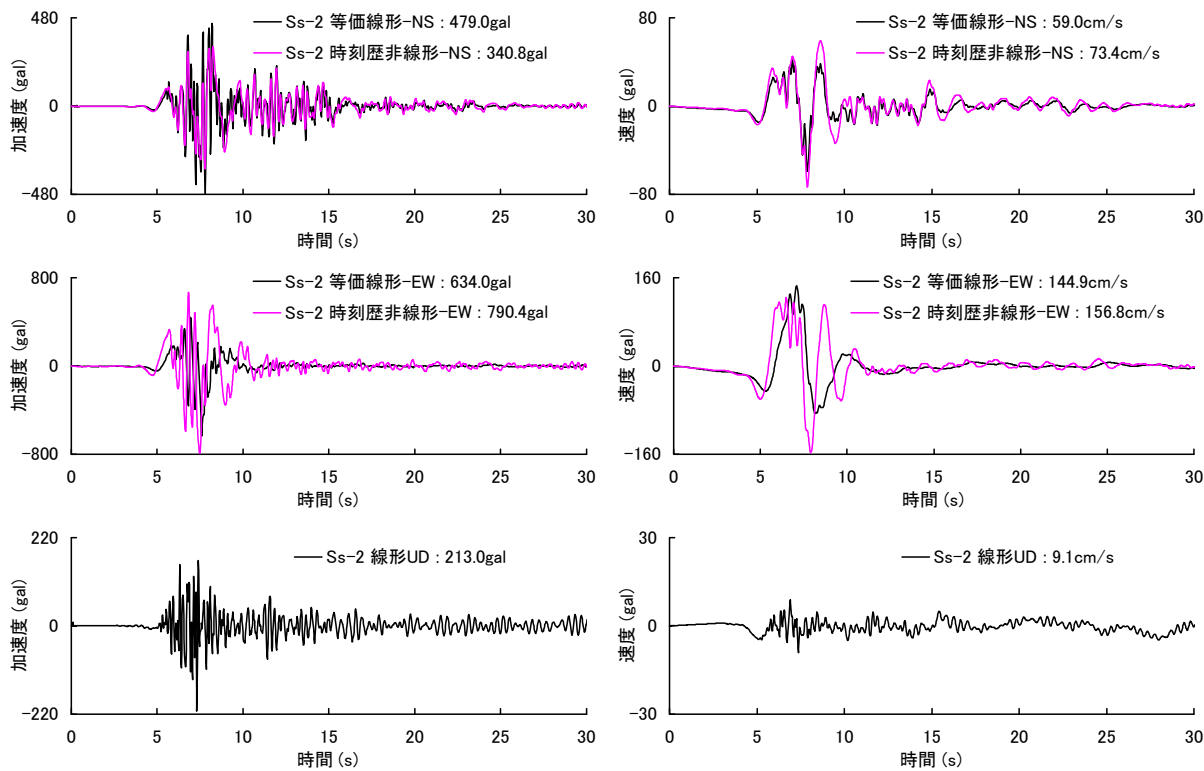


(b) 鉛直動

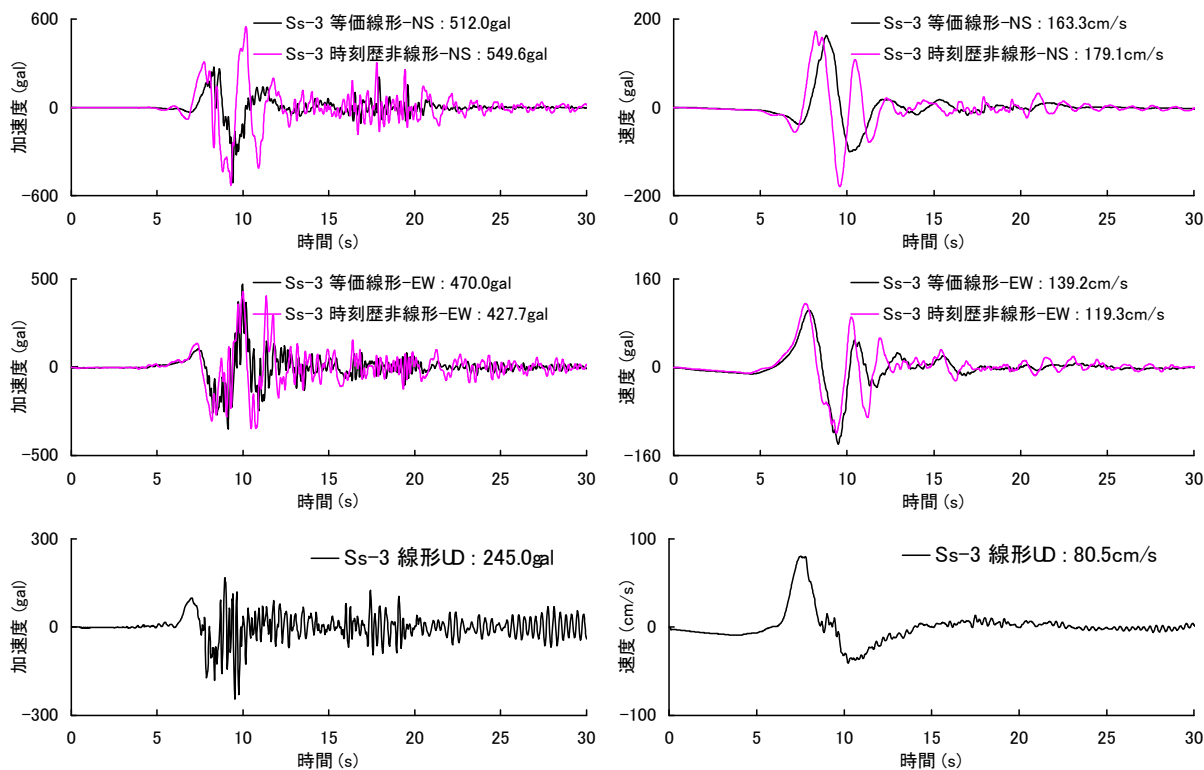
第 4.4.1-1 図 基準地震動 Ss の応答スペクトル



第 4.5.1-1 図 地盤の非線形特性モデル（実線）及び
室内試験に基づく各地層の地盤非線形特性 (G/G_0 : ●, h : ◆)

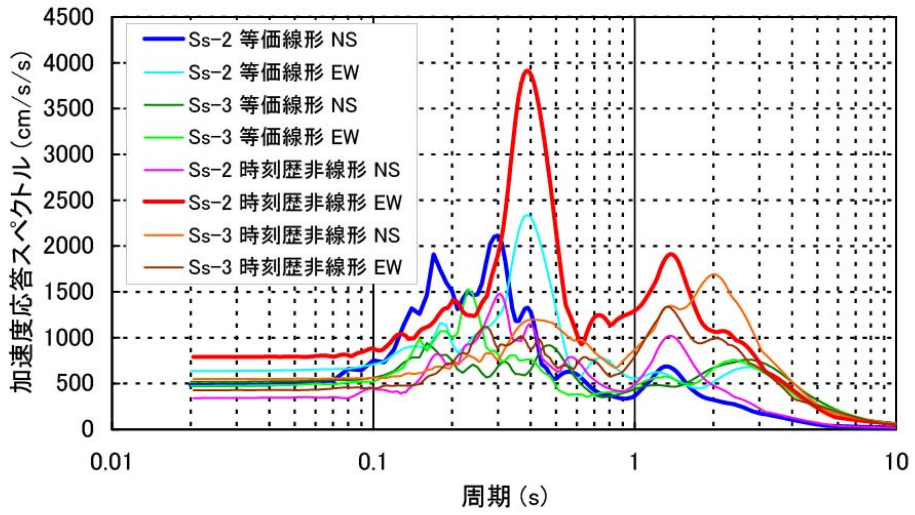


(a) 建屋基礎底位置における基準地震動 Ss-2 の応答波形

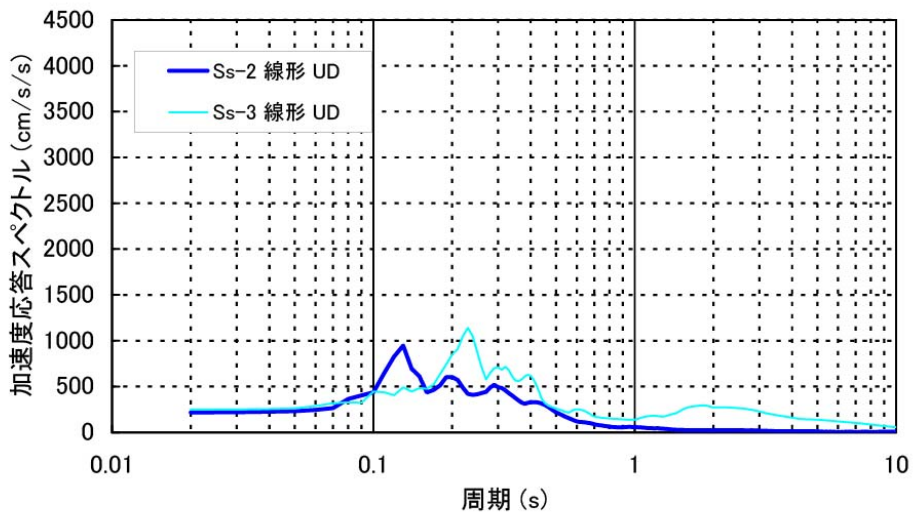


(b) 建屋基礎底位置における基準地震動 Ss-3 の応答波形

第 4.5.1-2 図 等価線形及び時刻歴非線形応答解析結果の時刻歴波形

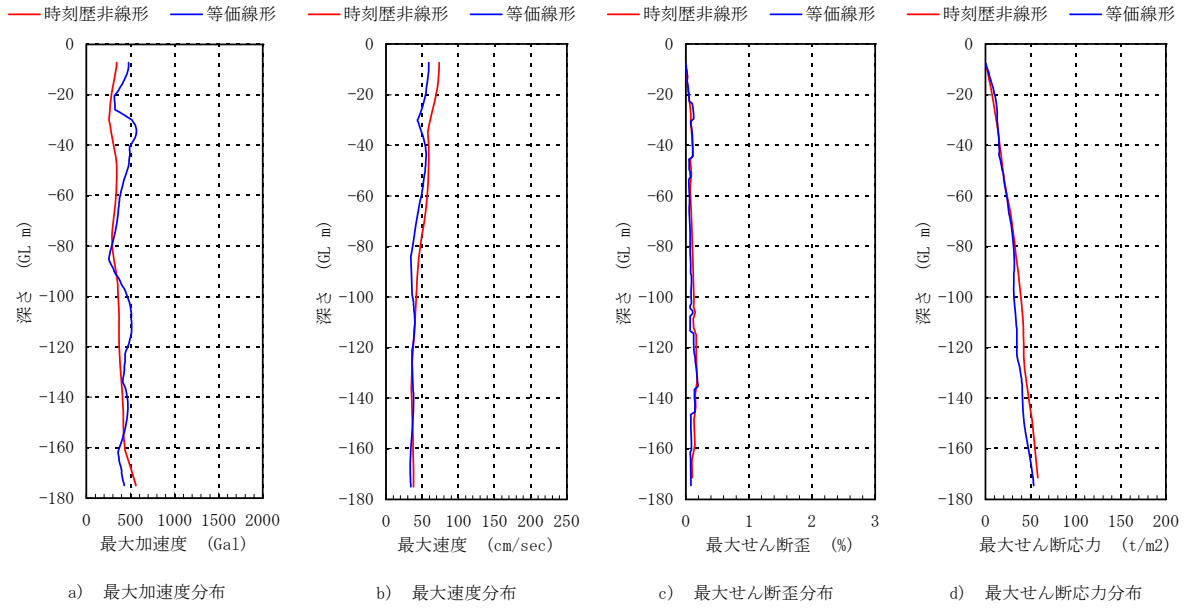


(a) 水平方向の応答スペクトル

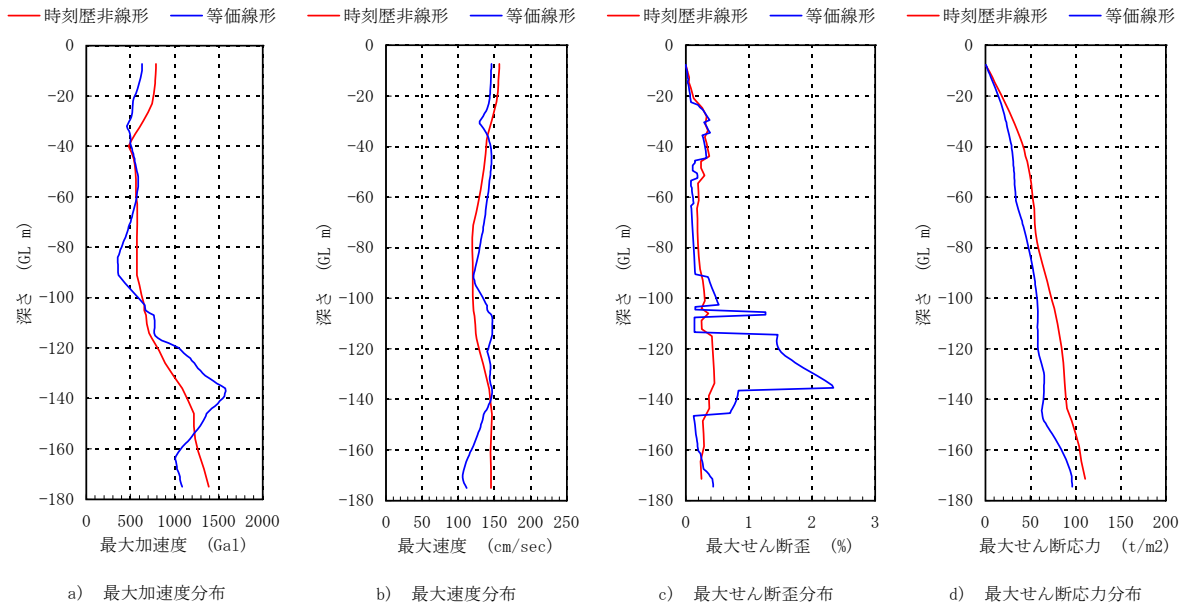


(b) 鉛直方向の応答スペクトル

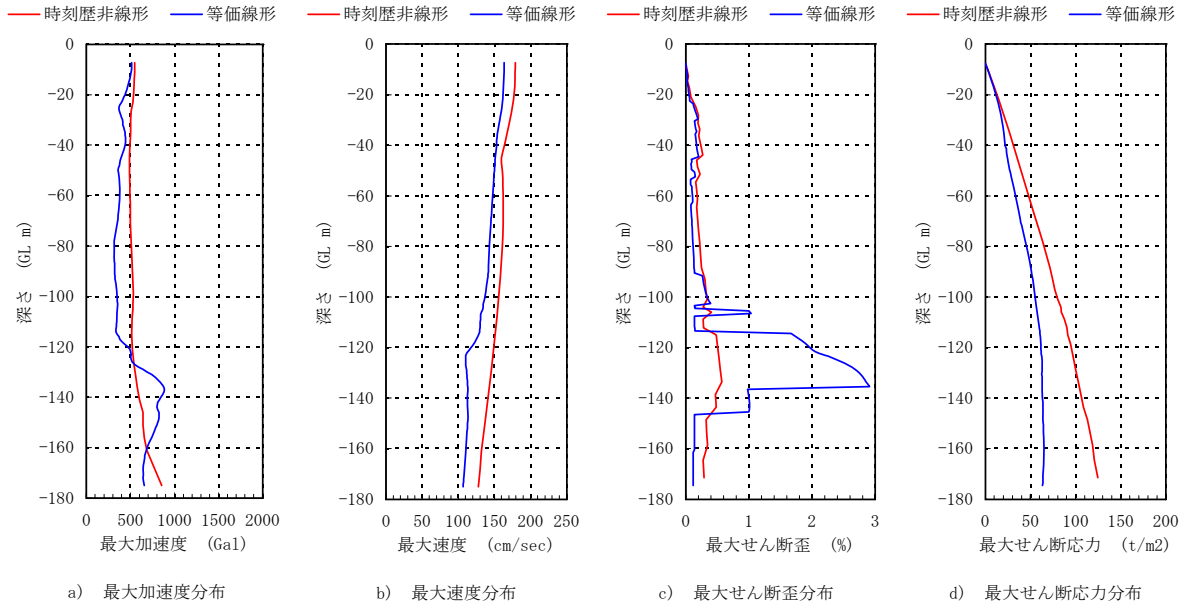
第 4.5.1-3 図 等価線形及び時刻歴応答解析結果の応答スペクトル



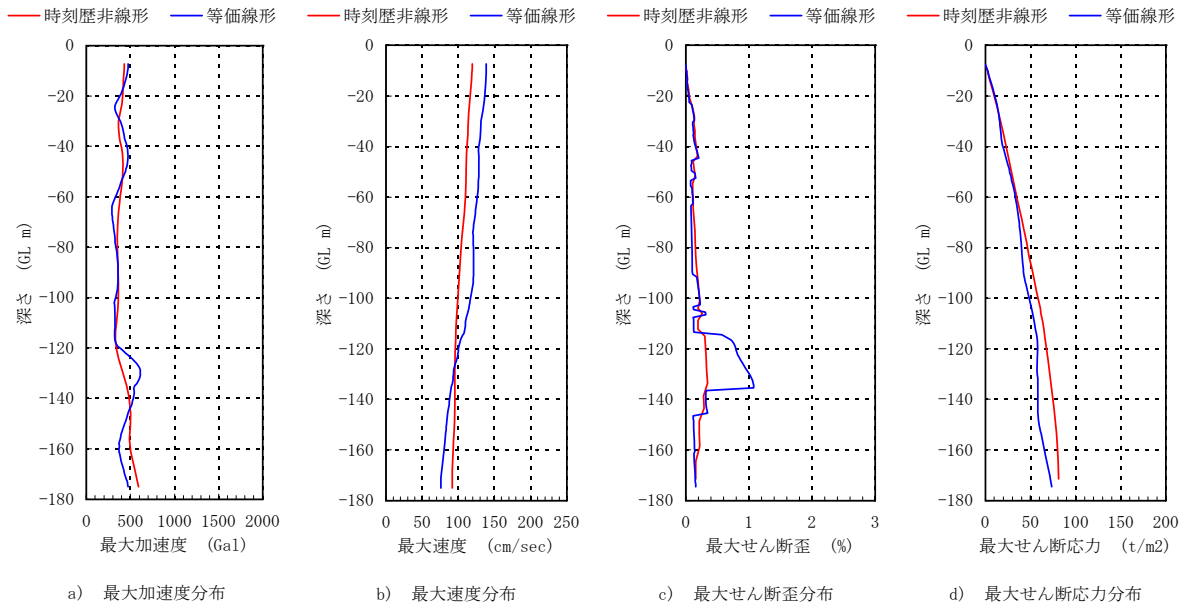
第 4.5.1-4 図(1) 深さ方向の最大値分布 (基準地震動 Ss-2, NS)



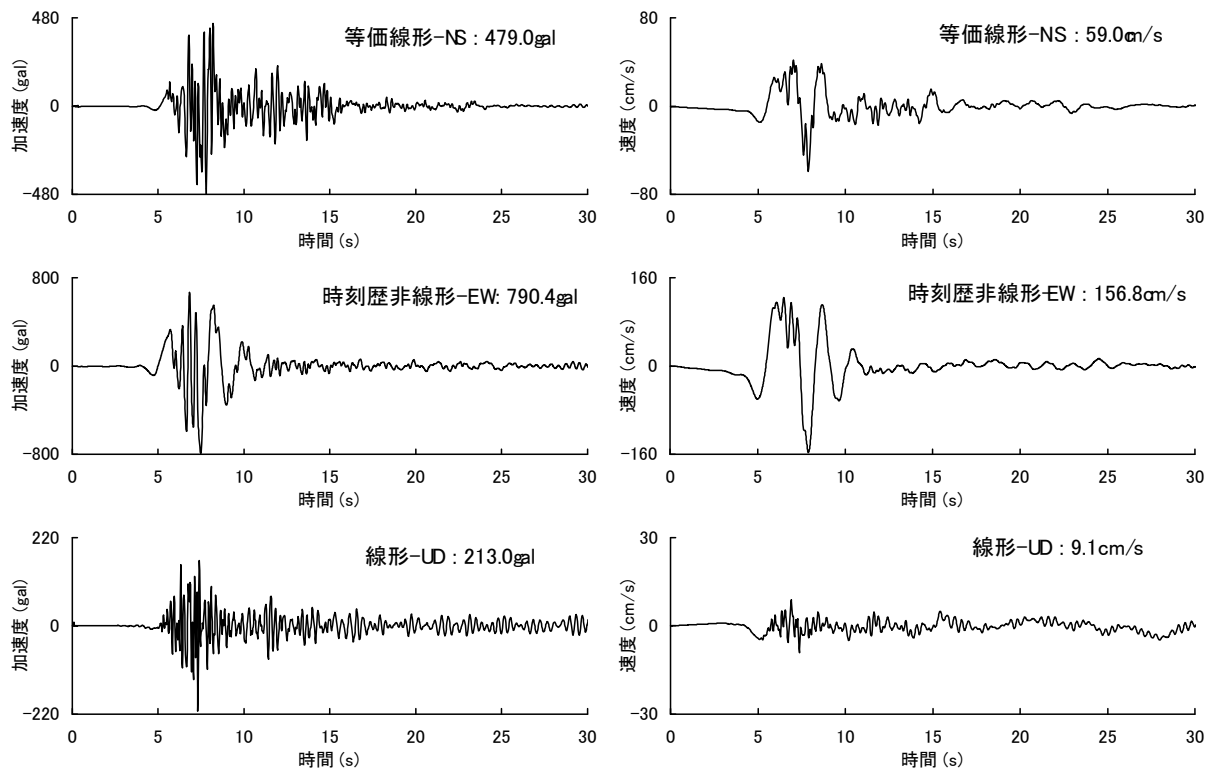
第 4.5.1-4 図(2) 深さ方向の最大値分布 (基準地震動 Ss-2, EW)



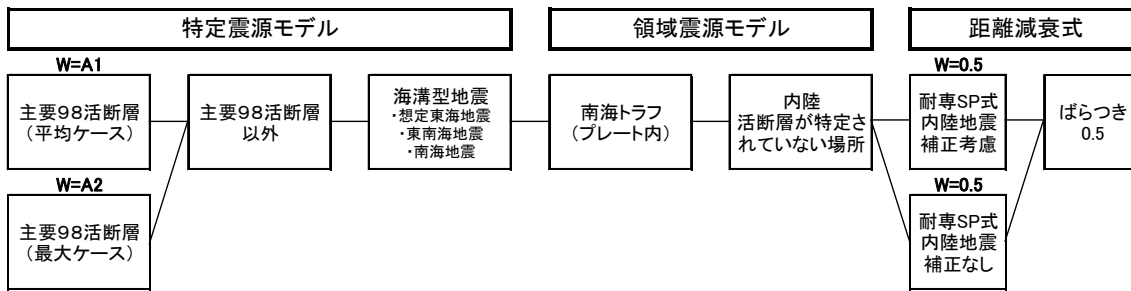
第 4.5.1-4 図(3) 深さ方向の最大値分布 (基準地震動 Ss-3, NS)



第 4.5.1-4 図(4) 深さ方向の最大値分布 (基準地震動 Ss-3, EW)

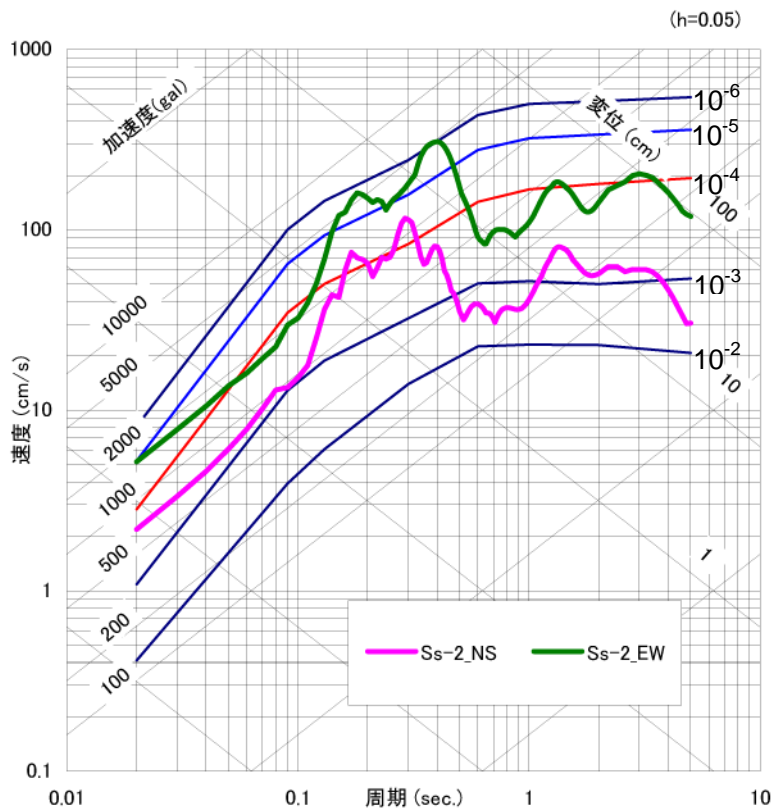


第 4.5.1-5 図 建屋基礎底位置における入力地震動



A1=0.75 A2=0.25

第 4.6.1-1 図 ロジックツリーの設定



第 4.6.1-2 図 解放基盤面における地震動のハザードスペクトルと基準地震動の応答スペクトルとの比較